

〈名画の扉〉

大川美術館企画展から

太く黒い線が印象的 夢の中へこぎ出している作品です。とても大胆な筆遣いに見えますが、女性のまつ毛や爪、少し開いた口元などをみると、細かな表現にも神経が通っていることがわかります。墨のわずかな濃淡と、少しのかすれが静かで穏やかな雰囲気を出しています。

コートを着たまま椅子に深く座り、両手を組んで、目をつぶる女性。コートのえりに埋もれるように顔を伏せた彼女は、うとうとと

夢の中へこぎ出しているように見えます。この女性は、松本竣介の妻、禎子(ていこ)かもしれません。禎子は、今でいうキャリアウーマンでした。仕事から帰ると疲れてよくひと休みしていたそうで、他にも、ソファに横たわったりうつ伏せになった、禎子がモデルと思われるデッサンが残っています。

静かな展示室にて、彼女と安らぎの時間を過ごしてみませんか。

(池田)

松本竣介 (1912~48年)

「うたたね」

1942年(ろ、墨・紙)  
25.8cm×38.6cm(個人蔵)

